

## さがみ縦貫危険物処理に関する有識者委員会

日 時： 平成16年3月26日(金)午前10時～午前12時  
(午前11時～午前12時は現地調査)

場 所： 掘削残土仮置き場(寒川管理所)  
(午前10時～午前11時：委員会)  
掘削残土仮置き場並びに橋脚工事現場  
(午前11時～午前12時：現地調査)

### 議事次第

#### 1. 有識者委員会

##### 1-1 開会

##### 1-2 議事

##### (1) 資料説明

項 目	概 要
1. 橋脚工事現場(P28～P30区間)における掘削調査について	<ul style="list-style-type: none"><li>掘削調査の概要</li><li>発見された不審物</li><li>南側ブロック(P28～P29区間)の土質</li><li>南側ブロック(P28～P29区間)の掘削調査結果</li><li>掘削土壌の取扱い</li><li>さがみ縦貫道路敷地内の安全性について</li></ul>
2. 掘削残土仮置き場(田端)の状況について	<ul style="list-style-type: none"><li>分離作業の概要</li><li>発見された不審物</li></ul>
3. 発見された不審物並びに危険物(全体)	

##### (2) 審議

##### (3) 閉会

#### 2. 現地調査

#### 3. 記者会見

#### 4. マスコミ対応

委員会「資料説明」はオープン。現地調査終了後  
(午後0時30分をめぐり)記者会見を実施

「第十回さがみ縦貫危険物処理に関する有識者委員会」名簿

氏 名	職 名
山里 洋介	前陸上自衛隊化学学校校長
白石 寛明	独立行政法人国立環境研究所 化学物質環境リスク研究センター 曝露評価研究室長
田中 勝	岡山大学大学院自然科学研究科教授（欠席） （元国立公衆衛生院廃棄物工学部長）
浅利 靖	弘前大学医学部救急災害医学講座教授 （前北里大学医学部救命救急医学講師）
輿 重治	中央労働災害防止協会参与 （元産業医学総合研究所長）
オブザーバー 村山 正和 （清水 伸一）  塩川 実喜夫 （小松 義次）  （舩水 勇）	神奈川県防災局長（欠席） （神奈川県防災局応急対策担当課長）  神奈川県警察本部警備部長（欠席） （神奈川県警察本部警備部災害対策課長）  寒川町助役（欠席） （寒川町町民部長）

第10回

さがみ縦貫危険物処理に関する

有識者委員会

説明資料

国土交通省関東地方整備局  
横浜国道事務所

# これまでの委員会決定事項に関する具体案の報告について

## (1) 橋脚工事現場(P28～P30区間)における掘削調査について

掘削調査の概要

発見された不審物

南側ブロック(P28～P29区間)の土質

南側ブロック(P28～P29区間)の掘削調査結果

掘削土壌の取扱い

さがみ縦貫道路敷地内の安全性について

## (2) 掘削残土仮置き場(田端)の状況について

分離作業の概要

発見された不審物

## (3) 発見された不審物並びに危険物(全体)

**(1) 橋脚工事現場(P28 ~ P30区間)**

**における掘削調査について**

# (1) 掘削調査の概要

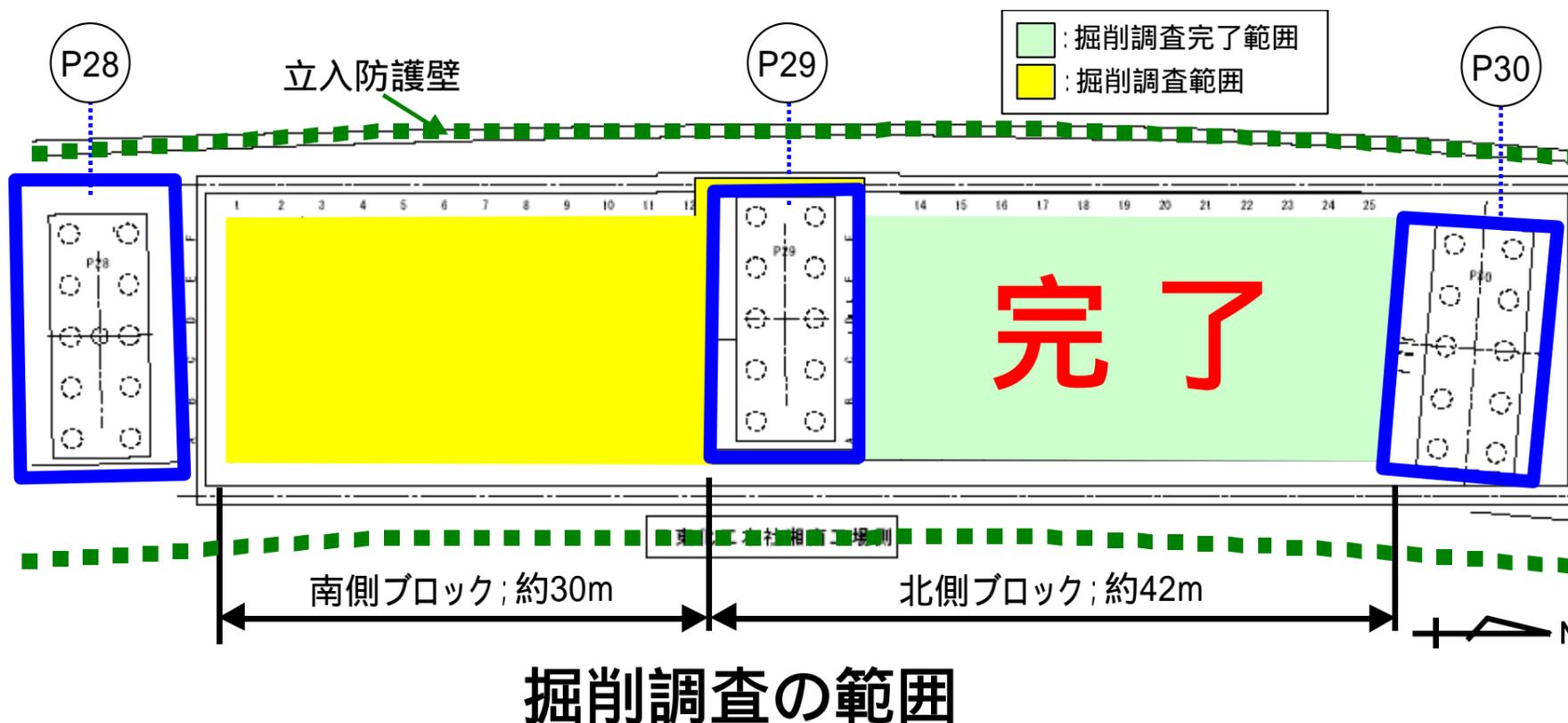


橋脚工事現場の状況(平成16年3月23日現在)

さがみ縦貫道路橋脚工事現場(P28～P30区間)において、平成15年11月21日(金)より掘削調査を実施。

平成16年2月6日までに北側ブロック(P29～P30区間)の調査完了。

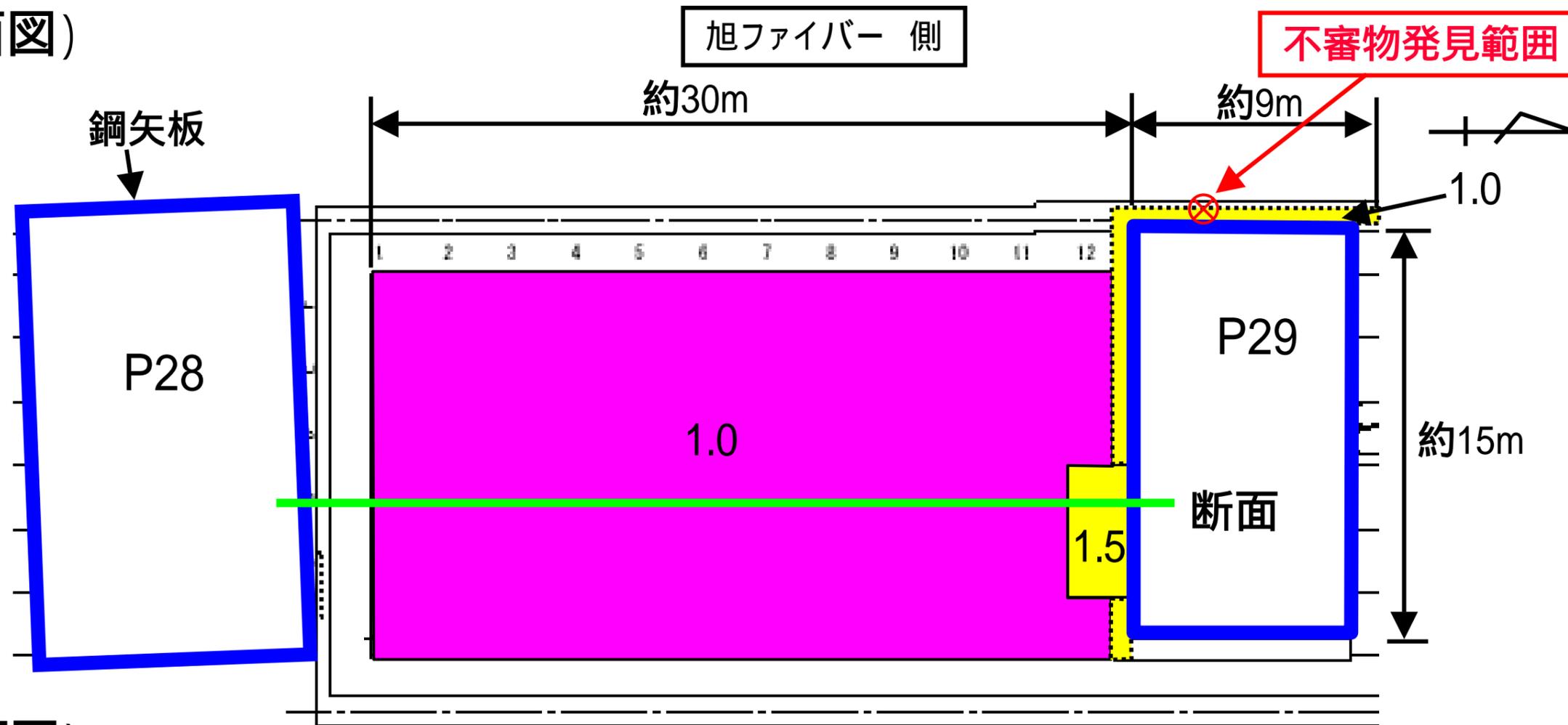
現在、南側ブロック(P28～P29区間)を調査。



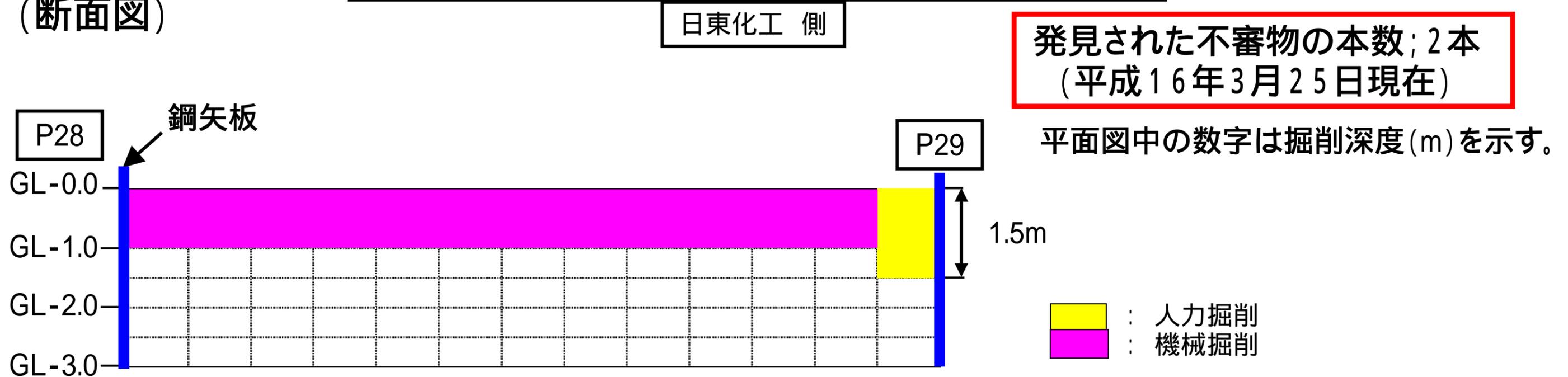
# (1) 掘削調査の概要

南側ブロック (P28 ~ P29区間) の作業進捗状況 (平成16年3月25日現在)

(平面図)



(断面図)



# (1) - 発見された不審物

## 掘削調査中に発見された不審物一覧

### 南側ブロック(P28～P29区間)

内容物の状態	内容物の色		本数
液体	黒色		2

計: 2本

### 北側ブロック(P29～P30区間)

内容物の状態	内容物の色		本数
液体	黒色		71
	黒色と透明に分離 (一部固形物が混入)		40
	不明	-	1
固形物	白色		42
	灰色		2

計: 156本

- ・南側ブロックにおいて不審物(ビール瓶)2本を新たに発見。
- ・発見された不審物の内1本はゴム状の栓で密閉。1本は詮無し。

南側ブロック	2本
北側ブロック	156本
<b>合計</b>	<b>158本</b>

# (1)ー 南側ブロック(P28～P29区間)の土質

## 土質調査結果(推定)

スウェーデン式サウンディング試験、試料採取により南側ブロック(P28～P29区間)の土質を分析。

当該地の土質は、大きく分けて、

- ) 相模川沿いに開けた沖積低地に分布し自然堤防堆積物(主に砂質土)から形成される自然地盤の砂質土
- ) 自然地盤の上に2.3～3.2m程度の厚さで広く分布し、広域的な造成等で形成された埋土層

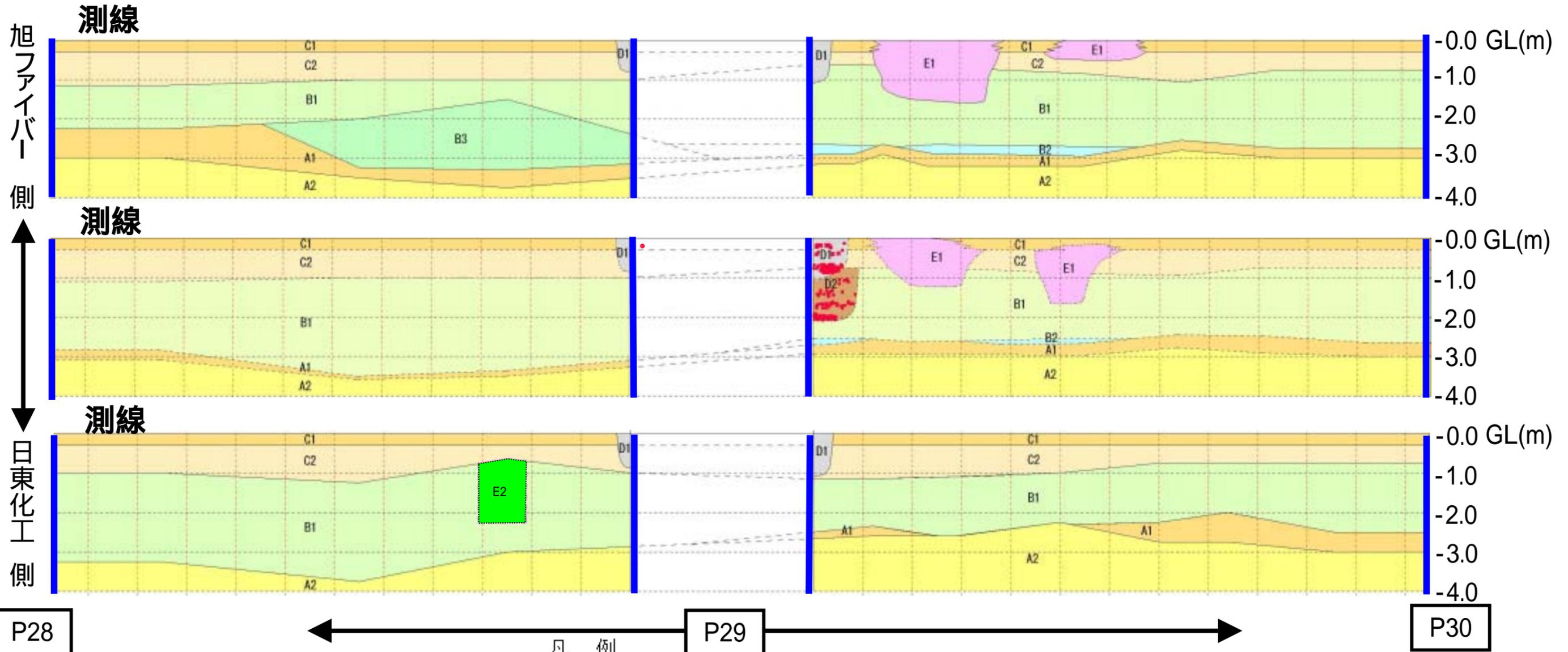
に分類。



北側ブロック(P29～P30区間)と同様の土質

# (1) 南側ブロック (P28 ~ P29 区間) の土質

## 土質調査結果 (土質断面図)



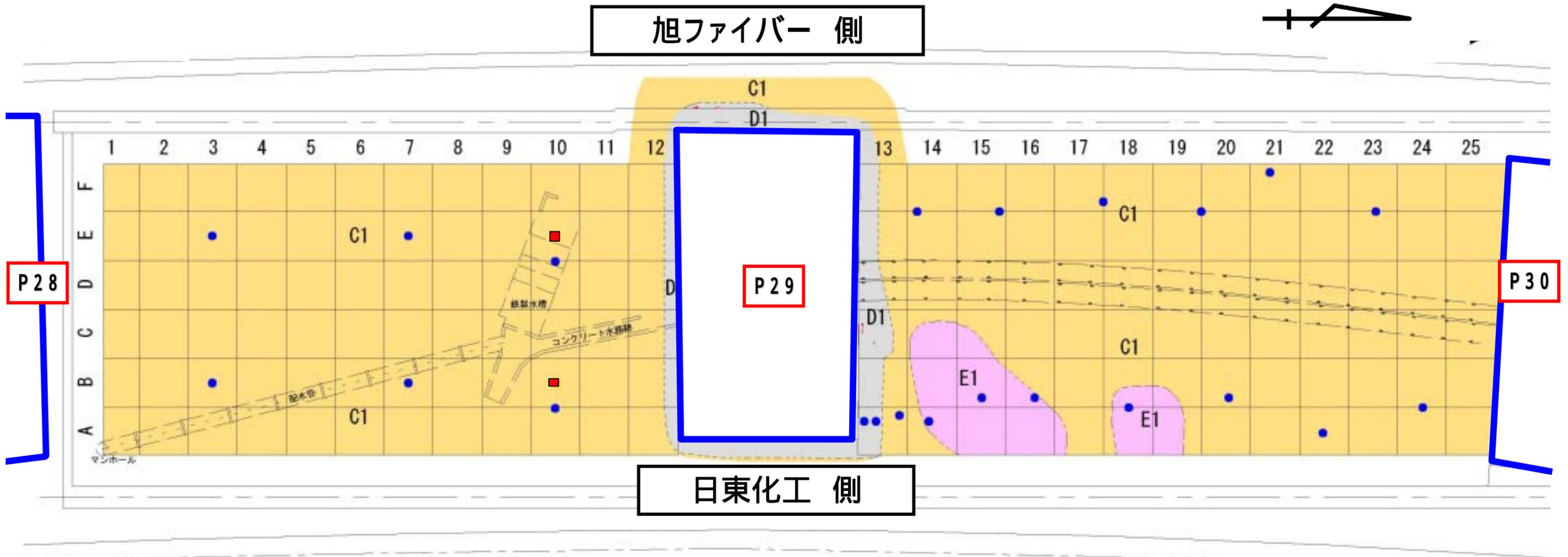
地層記号	地層名	記事
C1	路盤	碎石、改良盤(石灰)。
C2	下層路盤	φ10~40mm程度の亜鉛礫を混入する。砂の粒径不均一。暗褐色を呈す。
B1	埋土層(砂・ローム互層)	粒径均一な微細砂層と均質なローム質土との互層。ローム質土層の比率が高い。暗茶褐色を呈す。地盤造成として過去に施工された可能性。
B2	沖積砂質土層(ゆるい)	極軟質なローム質土からなる。水路東側で確認されている。暗褐色を呈す。
B3	埋土層(粘性土)	非常に軟質なシルトを主体とする。暗青灰色を呈す。地盤造成として過去に施工された可能性あり。
A1	埋土層(砂質土)	粒径やや不均一な細砂からなる。暗褐色を呈す。
A2	沖積砂質土層(かたい)	主に砂質土から成る自然堤防堆積層。
D1	埋土層①	P29矢板沿いに分布する。ローム質土を主体とするが、碎石、改良材の塊等が混入する。比較的最近埋め戻された層。
D2	埋土層②	礫や砂分を混入する不均質なローム質土からなる。明らかにB1層と異なり、過去に埋め戻されたと考えられる層。
E1	廃棄物(ゴミ主体)	ビニール、ゴム等の燃え殻を主体とする。黒色及び黒褐色を呈す。
E2	廃棄物(砂・粘性土主体)	鉄製水槽。掘削の結果、礫混じり砂質シルト及びシルト質細砂(D2層とは異なる)が詰まっている事を確認。水槽下にはB1層が確認されている。

— 凡 例 —

- = 充ビンを示す
- × = 空ビン又は破片を示す

# (1) - 南側ブロック (P28 ~ P29 区間) の土質

## 地質平面図 GL-0.0m



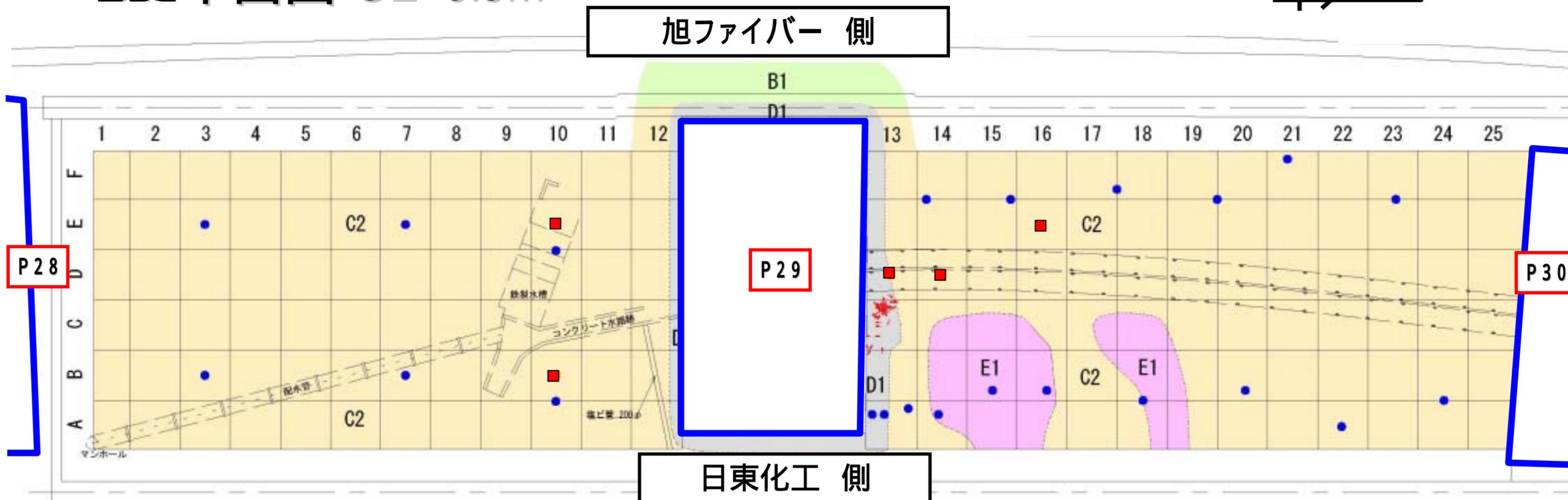
- = 試料採取及び土質観察地点
- = スウェーデン式サウンディング調査実施地点
- = 充ピンを示す
- = 空ピン又は破片を示す

### 凡 例

地層記号	地層名	記 事
C1	路盤	碎石、改良盤(石灰)。
D1	埋土層①	P29矢板沿いに分布する。ローム質土を主体とするが、碎石、改良材の塊等が混入する。比較的最近埋め戻された層。
E1	廃棄物(ゴミ主体)	ビニール、ゴム等の燃え殻を主体とする。黒色及び黒褐色を呈す。

# (1) - 南側ブロック (P28 ~ P29 区間) の土質

## 地質平面図 GL-0.5m



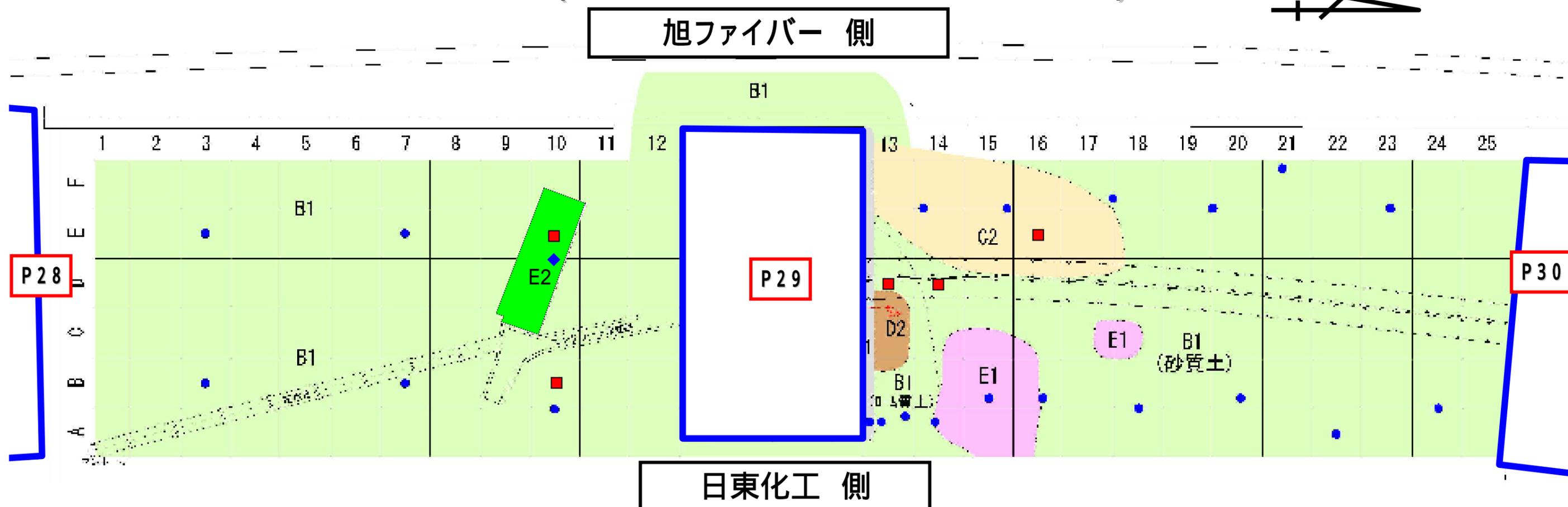
- = 試料採取及び土質観察地点
- = スウェーデン式サウンディング調査実施地点
- (red) = 充ビンを示す
- (red) = 空ビン又は破片を示す

### 凡 例

地層記号	地層名	記 事
C2	下層路盤	φ10~40mm程度の亜鉛礫を混入する。砂の粒径不均一。暗褐灰色を呈す。
B1	埋土層(砂・ローム互層)	粒径均一な微細砂層と均質なローム質土との互層。ローム質土層の比率が高い。暗茶褐色を呈す。地盤造成として過去に施工された可能性。
D1	埋土層①	P29矢板沿いに分布する。ローム質土を主体とするが、碎石、改良材の塊等が混入する。比較的最近埋め戻された層。
E1	廃棄物(ゴミ主体)	ビニール、ゴム等の燃え殻を主体とする。黒色及び黒褐色を呈す。

# (1) - 南側ブロック (P28 ~ P29 区間) の土質

## 地質平面図 GL-1.0m (一部GL-1.1mの箇所あり)



- = 試料採取及び土質観察地点
- = スウェーデン式サウンディング調査実施地点
-  = 充ビンを示す
-  = 空ビン又は破片を示す

### 凡 例

地層記号	地層名	記 事
C2	下層路盤	φ10~40mm程度の亜鉛礫を混入する。砂の粒径不均一。暗褐色を呈す。
B1	埋土層(砂・ローム互層)	粒径均一な微細砂層と均質なローム質土との互層。ローム質土層の比率が高い。暗茶褐色を呈す。地盤造成として過去に施工された可能性。
D2	埋土層②	礫や砂分を混入する不均質なローム質土からなる。明らかにB1層と異なり、過去に埋め戻されたと考えられる層。
E1	廃棄物(ゴミ主体)	ビニール、ゴム等の燃え殻を主体とする。黒色及び黒褐色を呈す。
E2	廃棄物(砂・粘性土主体)	鉄製水槽。掘削の結果、礫混じり砂質シルト及びシルト質細砂(D2層とは異なる)が詰まっている事を確認。水槽下にはB1層が確認されている。

# (1) - 南側ブロック(P28～P29区間)の掘削調査結果

土質調査結果(更なる埋設箇所の推定;南側ブロック(P28～P29区間))

1. 掘削調査を実施しながら土の状況を確認。  
(P29直近のB-12、C-12ブロックは深度1.5m、その他は深度1.0m程度)
2. 不審物が西側D1層で2本発見。  
D1層:鋼矢板設置時に、P29橋脚工事の掘削土により埋め戻された層  
(碎石、改良材の塊が混入)。
3. 更なる不審物の埋設は無し。
4. 深度1.0mでB1層(粒径均一な微細砂層と均質なローム質土の互層)が露出。  
(ヒューム管等が掘り出されたが、それらの下にB1層があることを確認)  
詳細な観察の結果、全域にわたりD1もしくはD2に類するような土の分布は無し。  
D2層:北側ブロックの大量に不審物が発見された土の層で、広く分布する  
B1層と明らかに異なる過去に埋め戻されたと考えられる層  
(碎石や砂分が不均質に混入)

南側ブロック(P28～P29区間)には更なる不審物の埋設は無く、掘削調査は終了。

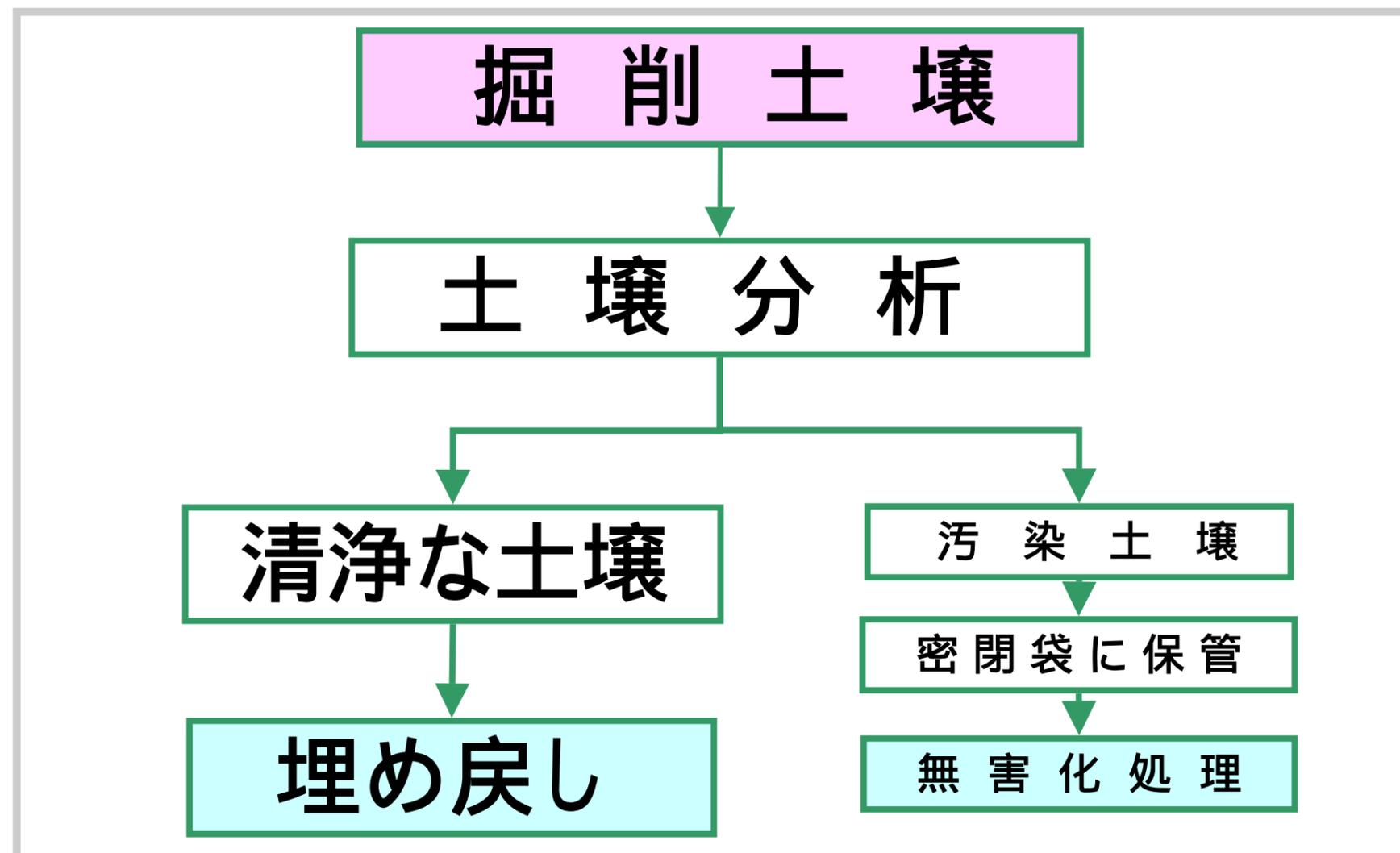
# (1) 掘削土壌の取扱い

# (1) 掘削土壌の取扱い

## 掘削土壌の方針

掘削調査により発生した掘削土については、マスタード等による汚染を確認し、汚染がみられない清浄な土壌については橋脚工事現場内に埋め戻し。汚染が確認された土壌については、密閉袋に保管し、掘削調査完了後、無害化処理設備で完全に無害化。

## 掘削土壌の処理フロー



# (1) - 掘削土壌の取扱い

## 掘削土壌の分析方法

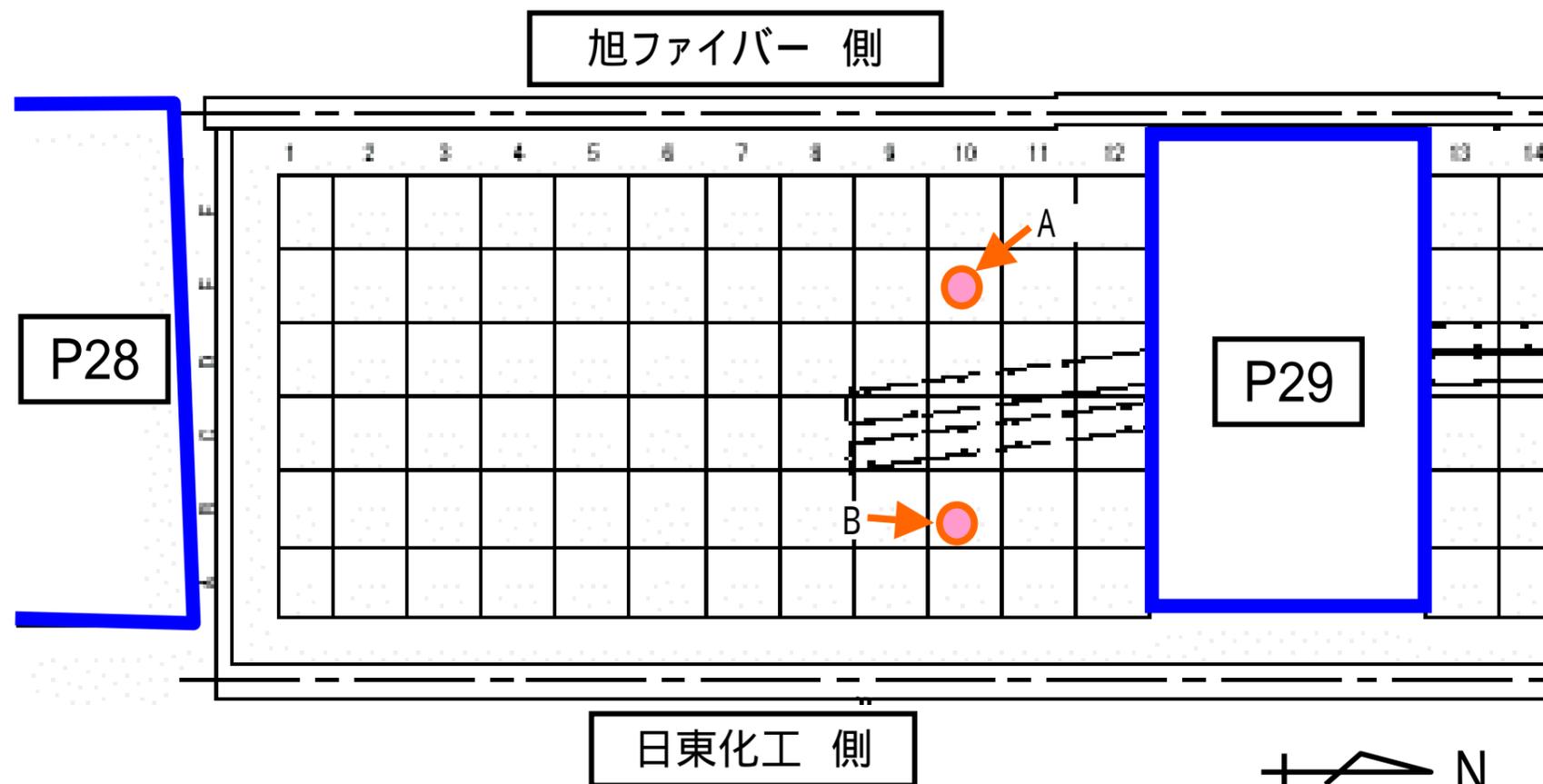
分析機関 : (財)化学物質評価研究機構

分析方法 : 溶媒抽出法及び誘導体化法でGC-MSにより分析

分析場所 : サンプル配置 橋脚間に代表2箇所

サンプル深度 深度0.5m、1.0m

## 南側ブロック(P28~P29区間)の掘削土壌分析箇所



A : 深度0.5、1.0mの2検体  
B : 深度0.5、1.0mの2検体  

---

合計4検体

# (1) - 掘削土壌の取扱い

## 掘削土壌の分析結果

化合物	場所	A		B		定量下限 (ug/wet·g)
	深さ	0.5	1.0	0.5	1.0	
マスタ - ドガス		N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.05
ルイサイト1チオ - ル化物		N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.1
2 - クロロアセトフェノン		N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.1
ジフェニルクロロアルシン		N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.5
ジフェニルシアノアルシン		N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.5
ジフェニルアルシンチオ - ル化物		N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.1
ヒ素及びその化合物		N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	15

ND: 不検出又は定量下限値以下でMS分析による定性確認不可

- 分析の結果、掘削土については、汚染は認められないので橋脚工事現場に埋め戻し。
- P29鋼矢板周りの掘削土（約50m<sup>3</sup>）については、密閉袋に保管し、今後、無害化処理を実施。

# (1) - さがみ縦貫道路敷地内の安全性について

## 安全性の確認状況

ボーリング調査 (P11 ~ P28区間及びP30 ~ P34区間)

第六回有識者委員会において同区間の安全性を確認

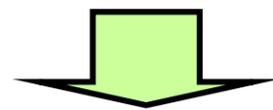
掘削調査 (P28 ~ P30区間)

1) 北側ブロック (P29 ~ P30区間)

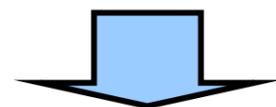
第九回有識者委員会において、同区間の安全性を確認

2) 南側ブロック (P28 ~ P29区間)

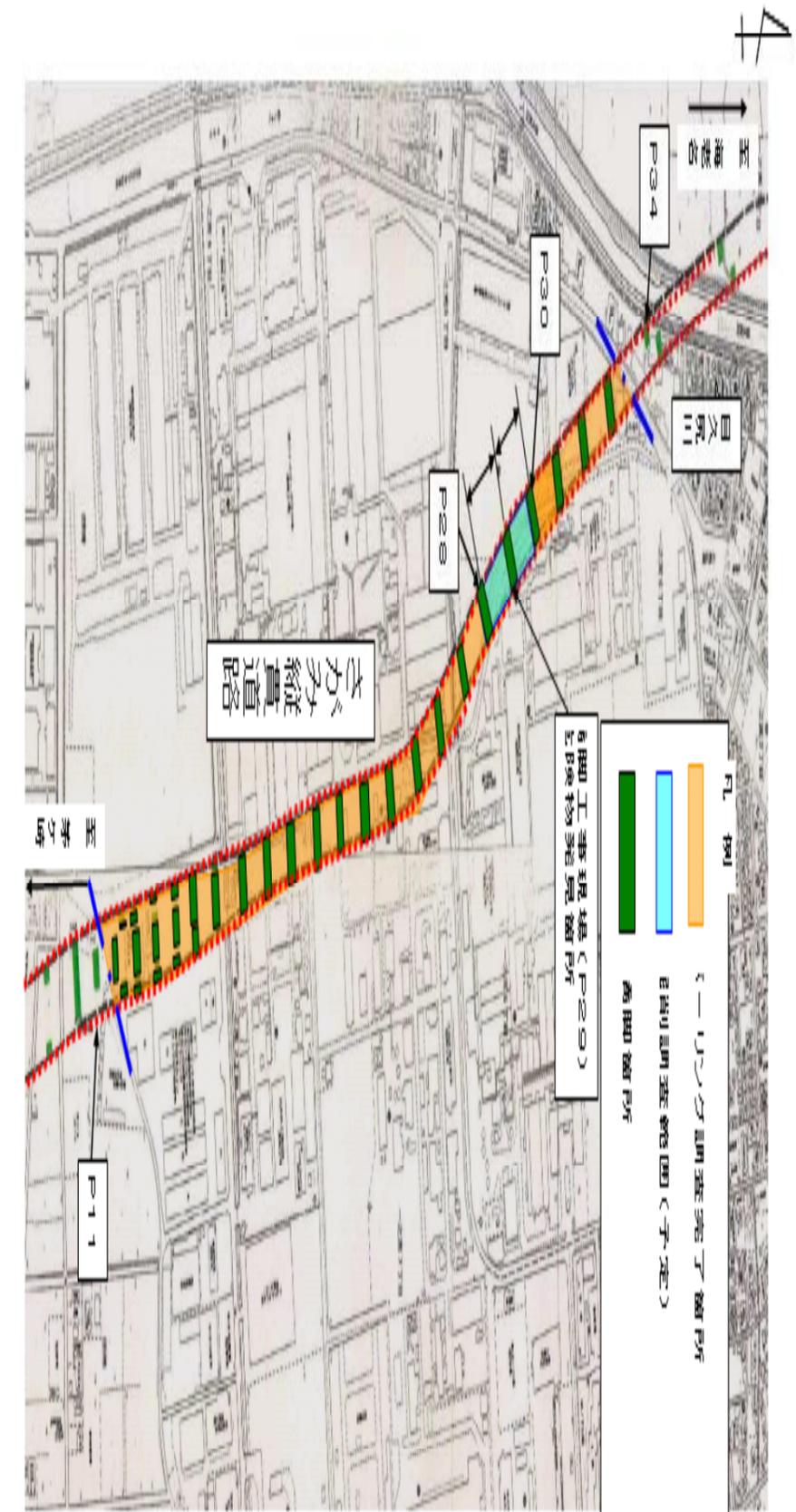
南側ブロックには更なる不審物の埋設なし



さがみ縦貫道路敷地内 (P11 ~ P34区間) の安全性を確認

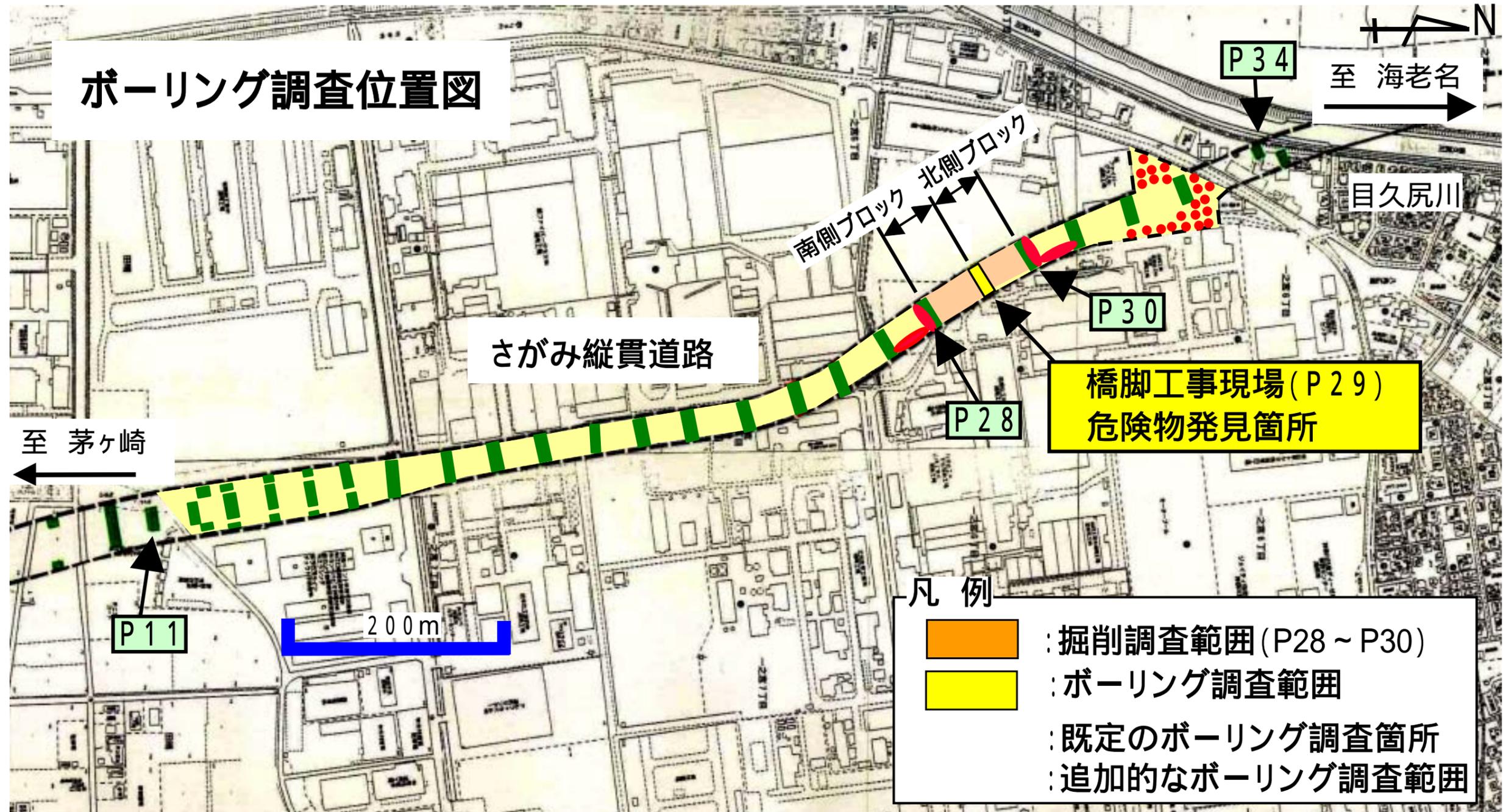


さがみ縦貫道路敷地内の工事を再開へ



# (1) - さがみ縦貫道路敷地内の安全性について

## (参考) ボーリング調査の実施状況



既定のボーリング (概ね 10mピッチ)

124箇所

追加的なボーリング (P27 ~ P34区間)

75箇所

計 199箇所

## **(2) 掘削残土仮置き場(田端)の状況について**

## (2)ー 分離作業の概要

掘削残土仮置き場における  
分離作業の流れ  
(映像)

[分離作業の手順\(映像\).wmv](#)

## (2) - 分離作業の概要

掘削残土仮置き場では、平成15年10月23日(木)より、実施していた汚染残土と危険物等の分離作業(機械掘削・吸引+人力掘削・移送)を平成16年3月23日(火)までに実施。

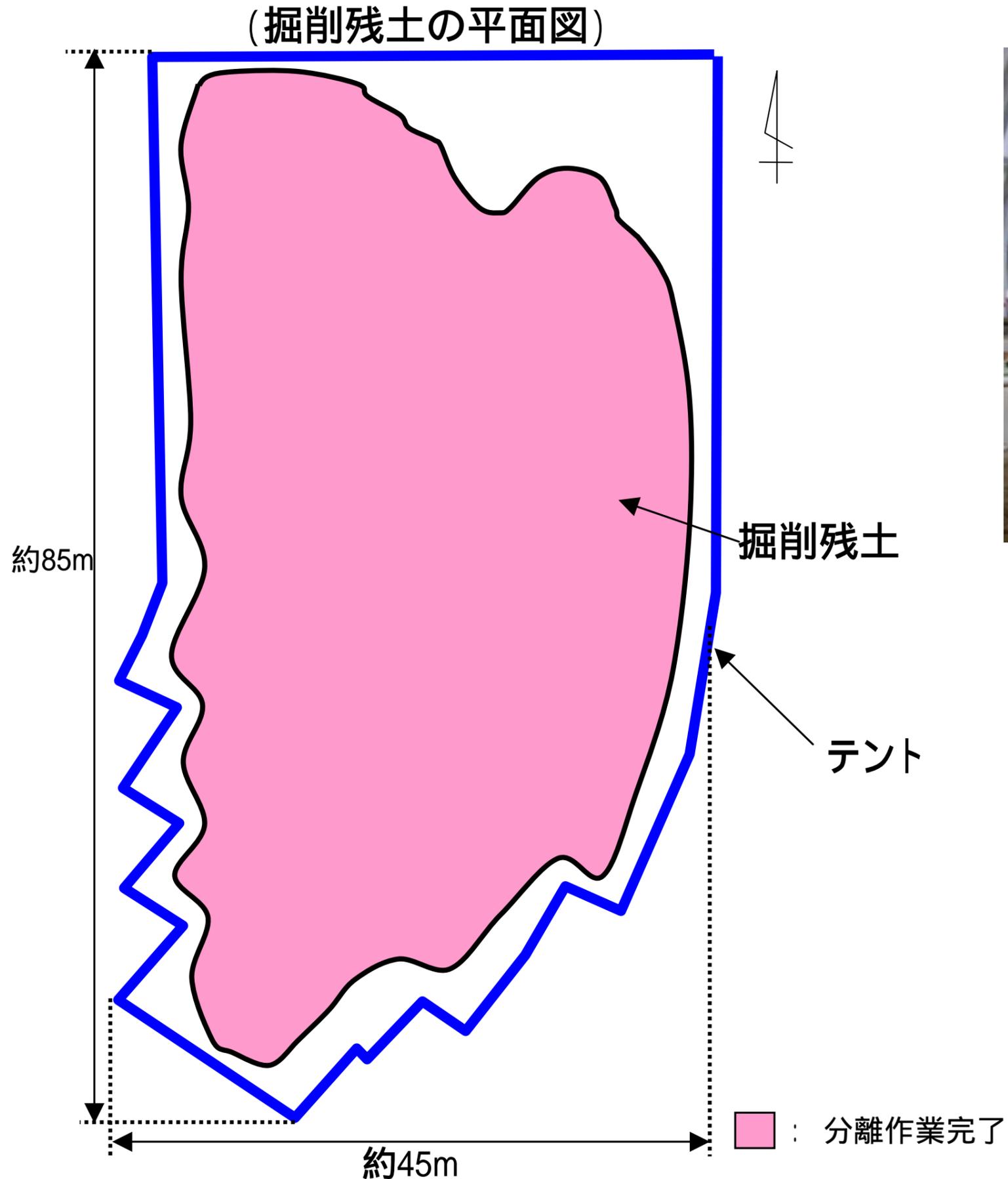


テント内の状況(平成16年3月23日現在)



掘削残土仮置き場の状況(平成15年11月26日撮影)

## (2) - 分離作業の概要



テント内の状況 (平成16年3月23日現在)

分離作業の進捗状況  
平成15年10月23日から平成16年3月  
23日まで分離作業を実施

- ・ 作業の進捗率 : 100%  
(全体6,475m<sup>3</sup>の分離作業完了)
- ・ 不審物の本数 : 633本

汚染残土や発見された危険物等は、  
今後建設される無害化処理設備にお  
いて処理。

## (2)ー 発見された不審物

### 発見された不審物一覧

内容物の状態	内容物の色		本数
液体	黒色		229
	黒色と透明に分離 (一部固形物が混入)		235
	不明	-	1
固形物	黒色		54
	灰色		100
	白色		13
	不明	-	1

計：633本

分離作業(平成15年10月23日開始～平成16年3月23日まで実施)

・不審物(充ビン)は全てビール瓶(633本)。

・不審物(充ビン)の内427本はゴム状の栓等で密閉。206本は詮無し。

# (3) 発見された不審物並びに危険物(全体)

## 発見された不審物並びに危険物(全体)

内容物の状態	内容物の色等		危険物	不審物		計
			当初(平成14年)に 発見・回収された危険物	掘削調査(一之宮)	分離作業(田端)	
液体	黒色		8	73	229	310
	黒色と透明に分離 (一部固形物が混入)		1	40	235	276
	不明	-	0	1	1	2
固形物	黒色		1	0	54	55
	灰色		0	2	100	102
	白色		1	42	13	56
	不明	-	0	0	1	1
計			11	158	633	802

掘削調査 158本(平成15年12月5日～平成16年3月8日に不審物発見)

分離作業 633本(平成15年11月1日～平成16年3月22日に不審物発見)